デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 20 日(火)　発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

■ 日経平均株価は 841 円 28 銭安の 6 万 4075 円 42 銭と 2 日続落、TOPIX も 58.27 ポイント安の 4009.21 と 3 営業日ぶりに反落した。前日の米ナスダックと SOX 指数は反発していたが、東京はその流れを引き継げず前場に一時 1000 円超下げた。

■ 下落の主因は二つ。米 AI クラウドのコアウィーブの社債がディストレス水準まで売られ信用不安が蒸し返されたこと、そしてホルムズ海峡を巡る緊張で WTI 原油が 104 ドル台に乗せ、インフレ再加速と金利高への警戒が強まったことである。

■ 物色は防御的で、値上がりは 33 業種中 9 業種のみ。その他製品・小売業・医薬品・精密機器が上昇した半面、非鉄金属・銀行業・ガラス土石が大きく下げた。プライムの値下がりは 1177 銘柄に達し、値上がりは 333 銘柄。売りは半導体以外の金融・素材へも広がり、調整が市場の広い範囲に及んだ日となった。

■ 注目は金利と信用。20 年債入札は応札倍率 5.84 倍と好調で国内の超長期金利は低下したが、米 10 年債は 5.14%、30 年債は 5.47%と上昇が続く。AI 関連企業の資金調達環境と原油価格という二つの変数が、当面の株価の上限を決める構図になっている。

2．主要指標

指標名	水準	前日比	備考
日経平均株価	64,075.42 円	▲841.28 円(▲1.30%)	2 日続落。安値 63,807.15 円
TOPIX	4,009.21	▲58.27(▲1.43%)	3 営業日ぶりに反落
東証プライム売買代金	6 兆 7,992 億円	売買高 21 億 4,872 万株	20 日・概算値
値上がり／値下がり	333／1,177 銘柄	変わらず 37 銘柄	上昇は 9／33 業種
新発 10 年国債利回り	2.895%	▲0.010%	2 年 1.880%、20 年 3.723%
長期国債先物(12 月限)	125 円 81 銭	寄付 125 円 58 銭	高値 125.88／安値 125.51
米ダウ工業株 30 種	51,966.03 ドル	▲36.38 ドル(▲0.1%)	19 日終値
S&P500	7,690.73	+31.29(+0.4%)	19 日終値
ナスダック総合	26,430.89	+290.85(+1.1%)	19 日終値
SOX 指数	11,316.34	+179.05(+1.61%)	19 日。9 営業日ぶりに反発
米 10 年債利回り	5.140%	+0.067%	2 年 4.774%、30 年 5.473%
韓国総合株価指数	5,552.74	▲215.27(▲3.73%)	20 日終値
香港ハンセン／上海総合	23,908.30／3,727.75	▲1.15%／▲0.08%	20 日 14 時 07 分時点
ドル円	158 円 10 銭台	158.10～158.60 円	20 日東京時間のレンジ
WTI 原油／NY 金	103.66／4,160.1 ドル	+2.25／▲21.0 ドル	19 日清算値。原油は 8 日続伸

3．株式市場

戻しても続かず、安値圏で引けた

日経平均は 161 円 21 銭安の 6 万 4755 円 49 銭で始まった。前日の米国市場でナスダックが 1.1%高、SOX 指数が 9 営業日ぶりに反発していたことを踏まえれば、この寄り付きの弱さがすでに東京市場の体温の低さを示していた。売りは寄り後に加速し、午前 10 時 17 分には 6 万 3894 円 67 銭(1022 円 03 銭安)まで下げた。押し目買いで前引けは 404 円安の 6 万 4512 円 35 銭まで戻したが、後場は再び売られ、15 時過ぎに安値 6 万 3807 円 15 銭を付けて安値圏で引けた。戻り幅をその日のうちに失う展開は前日と同じで、戻り売り圧力の強さを裏付けた一日である。

売りは半導体から金融・素材へ広がった

押し下げ上位はソフトバンクグループ(235 円 43 銭分)、東京エレクトロン(134 円 00 銭分)、アドバンテスト(125 円 13 銭分)、フジクラ(58 円 66 銭分)、イビデン(45 円 71 銭分)と AI 関連の中核だった。売買代金上位もキオクシアホールディングス、アドバンテスト、太陽誘電、ソフトバンクグループ、レーザーテックと同じ系統で占められた。だが下げはそこで止まらず、業種別で最も下げたのは非鉄金属(フジクラ、古河電気工業)、次いで銀行業だった。三菱 UFJ フィナンシャル・グループは米銀株指数の下落に連れて 3.7%安の 3351 円まで売られ、海運、その他金融、証券・商品先物も下落した。

買われたのは内需・ディフェンシブ

上昇した 9 業種はその他製品、小売業、医薬品、精密機器など内需・ディフェンシブ色の濃い業種に限られた。ファーストリテイリングは「ユニクロ」秋冬商品の平均 4%程度の値上げが伝わり 2.0%高の 7 万 5360 円となり、1 銘柄で 122 円 17 銭分を押し上げた。コーエーテクモホールディングスは中間期の営業利益が従来予想の 70 億円を上回る 115 億円になったと発表して 3.8%高。ゲーム関連ではコナミグループ、バンダイナムコホールディングスも買われた。半面、トレンドマイクロは法人向けに最大 100 億円分のセキュリティー製品を無償提供すると発表し、費用増を懸念して 4.8%安となった。

4．本日の主題：半導体主導の下げなのに、TOPIXの方が深く沈んだ

下落率は日経平均1.30%に対しTOPIXが1.43%で、TOPIXの方が大きかった。寄与度で見た下げの主役はソフトバンクグループと半導体製造装置株であり、通常なら値がさのAI関連を多く抱える日経平均が深く沈む。10月15日の3318円安では日経平均が4.9%安、TOPIXは2.4%安だった。わずか3営業日でこの関係が逆転した。

理由は二つある。日経平均側ではファーストリテイリングの122円17銭の押し上げが効いた。株価平均型の日経平均では841円安のうち1割以上を埋めた計算だが、時価総額加重のTOPIXにはほとんど効かない。TOPIX側では、下げが銀行・非鉄金属・海運・証券といった比重の高い業種に広がった。値下がり1177対値上がり333という偏りがそれを示す。

この「広がり」が本日の最大の変化である。13日以降の調整はコアウィーブの信用不安を起点としたAI関連株の高値修正という性格が強かった。だが本日は同じ信用不安が米銀株安を通じて国内銀行株に波及し、原油104ドルと米30年債5.47%という圧力が重なった。半導体株が落ち着いても相場が戻らない可能性を意識せざるを得ない。

5．債券・金利

国内債は堅調だった。長期国債先物12月限は125円58銭で寄り付き、安値125円51銭から高値125円88銭まで買われて125円81銭で引けた。新発10年債利回りは2.895%へ約1ベーシスポイント低下し、20年債は3.723%。株安による逃避買いに加え、20年債入札が応札倍率5.84倍・テール7銭と好調だったことが超長期の買い安心感につながった。対照的に19日の米10年債は5.140%（0.067%上昇）、30年債5.473%と売られ、2年10年格差は38ベーシスポイントに拡大。日本債高・米国債安のねじれは、円金利低下が景気期待の後退を映す「悪い金利低下」の可能性を含む。

6．為替・商品

ドル円は東京時間に158円60銭から158円10銭へ水準を切り下げた。前日のニューヨークでは米長期金利上昇を背景に158円50銭まで円安が進んでいたが、東京では株安とともにドルの上値が重くなった。ユーロ円は177円53銭～177円91銭。商品では原油が相場の重荷となり、WTI11月限は19日に103.66ドル（2.25ドル高）と8日続伸、ホルムズ海峡でのタンカー爆発やサウジのパイプライン攻撃が供給不安を強めた。20日の時間外ではイラン第1副大統領の海峡主権を巡る発言で104ドル台に乗せた。NY金12月限は4160.1ドルと21.0ドル安で反落した。

7．海外市場の動向

19日の米国市場はまちまちだった。ナスダック総合が1.1%高の26430.89、S&P500が0.4%高の7690.73と上昇し、SOX指数は1.61%高の11316.34で9営業日ぶりに反発。半面ダウ平均は36.38ドル安と小幅続落で、10月のNAHB住宅市場指数29（前回32）の低調と金利上昇が重荷になった。20日のアジアは半導体比重の高い市場の下げが目立ち、韓国総合株価指数は3.73%安の5552.74。SKハイニックスが5%超下落し、同日コスダックに上場したAIデータセンター関連のエリスグループが公開価格を3割超下回ったことが心理を冷やした。台湾加権0.87%安に対し香港ハンセン1.15%安、上海総合0.08%安で、地域差は半導体ウエートの差でおおむね説明がつく。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10年債	売買代金
10月14日(水)	67,744.29	▲33.23	4,096.78	3.000%	7兆4,500億円
10月15日(木)	64,425.95	▲3,318.34	3,999.34	2.890%	10兆1,400億円
10月16日(金)	65,324.29	+898.34	4,066.00	2.930%	7兆6,600億円
10月19日(月)	64,916.70	▲407.59	4,067.48	2.905%	6兆7,800億円
10月20日(火)	64,075.42	▲841.28	4,009.21	2.895%	6兆7,992億円

9．総括と注目点

本日はAI関連株の調整が金融株と素材株に波及した日として記録される。日経平均は15日の急落前の水準から5.4%低く、16日の898円高は自律反発にとどまった。値下がり1177銘柄、上昇9業種という幅の狭さは、これが値がさ株の需給調整ではなく資金コストと信用への見方の変化であることを示す。底を測る手掛かりは半導体株の反発力ではなく、米長期金利と原油、AI関連企業の社債価格に移っている。

- 米主要企業の決算：20日夜にネットフリックス、スリーエム、ノースロップ・グラマン。AI投資の採算と設備投資計画への言及が半導体株の方向を左右する。
- 原油とホルムズ海峡情勢：WTIが104ドル台に定着すればインフレ期待を押し上げ、米金利の高止まりを通じて株式のバリュエーションを圧迫する。
- AI関連企業の社債価格：コアウィーブの社債がディストレス水準から戻らなければ、銀行株への売りと信用スプレッドの拡大が続く。
- 金融政策：FOMCは10月27～28日（米国時間、結果判明は日本時間29日未明）、日銀金融政策決定会合は10月29～30日で展望レポートが公表される。

売買代金・売買高は大引け後の概算値。日経平均の日中高値は複数出典で確認できず記載していない。騰落銘柄数は株探の大引け記事（20日15時32分配信）を採用し、フィスコ配信（同16時17分）の比率（値上がり21.5%・値下がり76.0%）と整合を確認した。

新発10年債利回りは市場集計データの2.895%を採用。フィスコ配信（20日15時38分）は2.883%で約1.2ベーシスポイントの差がある。新発5年債・30年債の20日終値は出典間の整合が取れず記載していない。

WTI原油11月限の19日清算値は103.66ドル（前営業日101.41ドル＋2.25ドル）として検算が一致した値を採用。NY金12月限4160.1ドルは清算値で、取引時間中の表示値（4164.90ドル）とは異なる。アジア市場のうち韓国以外は20日14時07分時点の値。

下落率の対比や寄与度に関する記述の一部は筆者算出。本レポートは生成AIを用いて公開情報を整理・執筆した。出典：日本経済新聞、株探、フィスコ（財経新聞・investing.com経由）、ウエルスアドバイザー、マネクリ、共同通信、みんかぶ、OANDA Lab、Yahoo!ファイナンス。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。